

KOBELCO

第165期

株主の皆様へ

平成29年4月1日～平成30年3月31日

証券コード 5406

<お知らせ>

「株主様見学会参加者募集のご案内」を6ページに掲載しております。

失った信頼を再び回復するために、再発防止策の遂行と 企業価値向上に全身全霊を傾け、「神戸製鋼は変わった」と 認めていただけるよう不退転の決意をもって変革に取り組みます。

株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

本年4月1日に、私、山口貢が代表取締役社長に就任いたしました。果たすべき責務の重さを痛感しておりますが、今後の社業の発展に全力で取り組む所存でございますので、何卒宜しく願い申し上げます。

はじめに、昨年10月8日に、当社グループにおける品質に関わる不適切行為を公表して以降、株主の皆様には多大なるご心配とご迷惑をお掛けしておりますこと、改めて深くお詫び申し上げます。

ものづくりを生業とする当社グループが、品質に関わる不適切行為を行っていたことは、あってはならないことです。二度とこのようなことがないよう、ガバナンスや企業風土の抜本的な改革と再発防止に向けた取り組みを確実に推し進めていくことが私の最大の責務であり、当社グループが再び信頼を回復するためには欠かせない取り組みであると重く受け止めております。

また、私自身が、企業理念である「KOBELCOの3つの約束」やこれを実現させるための社員の行動指針である「KOBELCOの6つの誓い」に込められた思いや趣旨を社員に直接語り掛け、社員と対話することで、信頼回復に向けた取り組みの先頭に立ちます。

当社グループの全役員・社員が結束し、「神戸製鋼は変わった」と認めていただけるよう不退転の決意をもって変革に取り組みでまいります。

当期の業績および当期の配当について

さて、当社グループの当期の連結業績につきましては、後述の「業績のご報告」でご説明しておりますとおり、鉄鋼事業において自動車向けの需要が堅調だったこと、建設機械において中国でインフラ投資により需要が増加したことなどから、売上高は前期に比べ1,852億円増収の1兆8,811億円、経常損益は前期に比べ902億円改善の711億円の利益、親会社株主に帰属する当期純損益は前期に比べ862億円改善の631億円の利益となりました。

この結果を受け、当期の期末配当につきましては、不適切行為に係る影響を含め、今後の財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に勘案した結果、1株につき30円とさせていただきます。株主の皆様には、何卒ご理解を賜りたいと存じます。

今後の取り組みについて

当社グループが現在の中期経営計画で目標と見定める「素材系事業、機械系事業、電力事業を3本柱とする成長戦略」そ

のものは、これまでと何ら変わるものではありません。「品質」に関わるガバナンス・マネジメント・プロセスについて変革と再構築を進めると同時に、ビジネスチャンスを見逃さずに、中期経営計画の達成に向け取り組んでまいります。

世界的な環境規制の高まりを背景とした、輸送機の軽量化の動きは、鉄鋼やアルミ・銅、そして溶接に代表される接合ソリューション技術などを有する当社グループにとって、間違いなく追い風であり、こうした当社グループならではの技術・製品・サービスをお客様へ積極的にご提案し、成長を目指してまいります。加えて、機械系事業では、エネルギー・インフラをターゲットに、圧縮機事業の戦略的拡大や水素ビジネスなど、将来の需要拡大に備えた取り組みを加速させてまいります。電力事業については今後の安定収益源と位置付けており、盤石な経営基盤の一翼を担うべく現在取り組んでいるプロジェクトを着実に進めてまいります。

当社グループは、安全、環境、防災に加え、コンプライアンスの遵守が、企業が存在する上での土台であり基礎であるということに改めて肝に銘じ、信頼回復に努め、株主の皆様のご期待に沿えるよう、また、企業価値の向上に向け全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますとともに、当社グループをご支援いただきたく、何卒宜しく願い申し上げます。

平成30年6月

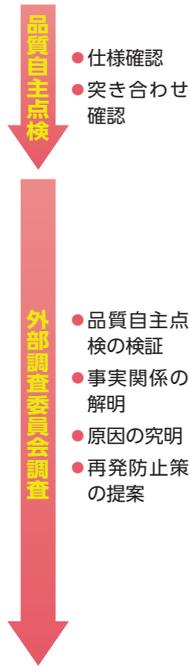
株式会社神戸製鋼所
代表取締役社長

山口 貢



■これまでの経緯

- (2016年)
 - 6月 ◆ 神鋼鋼線ステンレス株式会社におけるJIS法違反発覚
 - 11月 ◆ 品質管理強化のために、当社本社部門に品質統括室を設置
- (2017年)
 - 4月 ◆ JIS等の品質に関する公的規格のみならず、顧客仕様に違反して出荷されている製品の有無を確認するため、当社の全事業部門を対象として、本社主導による品質監査を開始
 - 8月初旬 ◆ 当社グループ全体に対して、過去1年分(2016年9月から2017年8月)の出荷実績に対する**品質自主点検**を9月から実施することを要請
 - 8月末 ◆ 品質自主点検を一部先行実施していたアルミ・銅事業部門の4事業所にて、品質検査における不適切な取扱いを発見し、社長に報告
その後速やかに不適合品の出荷を停止
 - 9月1日 ◆ 事業部門による品質自主点検と本社部門による緊急監査を開始
 - 10月8日 ◆ 当社および当社グループ会社における**不適切行為を対外公表**
 - 10月26日 ◆ 品質自主点検や緊急監査が概ね完了したことを受け、これまでの安全性の検証状況および「**外部調査委員会**」の設置を公表
 - 11月10日 ◆ 当社としての原因究明と再発防止策を公表
取締役会の諮問機関として「品質ガバナンス再構築検討委員会」を設置
 - 12月21日 ◆ 外部調査委員会による調査完了時期の延期を公表
アルミ・銅事業部門の3名の執行役員に委嘱業務を変更
- (2018年)
 - 1月1日 ◆ 本社に品質統括部を設置
 - 3月6日 ◆ 「**当社グループにおける不適切行為に関する報告書**」を公表
代表取締役辞任等の公表
 - 3月9日 ◆ 山口代表取締役社長就任の公表



■原因分析

I. 収益偏重の経営と不十分な組織体制

1. 本社の収益評価に偏った経営姿勢
2. 本社による統制力の低下
3. 経営陣の品質コンプライアンス意識の不足
4. 事業部門内における監査機能の弱さ
5. 本社による品質コンプライアンス体制の不備

II. バランスを欠いた工場運営と社員の品質コンプライアンス意識の低下

1. 工程能力に見合わない顧客仕様等に基づく製品の製造
2. 受注の獲得と納期の達成を至上命題とする生産・納期優先の風土
3. 事業部門を横断した人事交流や人事異動がほとんど存在しない閉鎖的な組織
4. 社員の品質コンプライアンス意識の鈍麻
5. 不適切行為の継続

III. 不適切行為を容易にする不十分な品質管理の手続き

1. 改ざんまたはねつ造を可能とする検査プロセス
2. 単独かつ固定化した業務体制
3. 遵守することが困難な社内規格の設定

■安全性検証の状況 (2018年5月18日時点)

過去1年分を対象とした当社グループの品質自主点検および外部調査委員会による調査の結果、検出いたしました不適合品を納入したお客様、また、直接の納入先以外のお客様の製品において、即時使用を停止する、または、直ちに製品を回収することが必要であると判明した事案は確認されておりません。

① 2017年10月26日時点で不適合製品の納入先として公表した525社

一定の安全性確認が完了しているお客様
525社 (進捗率100.0%)

② 外部調査委員会設置後に判明した不適切行為の対象となる163社

一定の安全性確認が完了しているお客様
162社 (進捗率99.4%)

■再発防止策(概観)

I. ガバナンス面 [品質ガバナンス体制の構築]

1. グループ企業理念の浸透
2. 取締役会のあり方
 - ・ 独立社外取締役の構成比を3分の1以上
 - ・ 「指名・報酬委員会」の設置
 - ・ 会長職を廃止、独立社外取締役から取締役会議長を選出
 - ・ コンプライアンスと品質を総括する取締役の配置
 - ・ 外部有識者のみで構成される外部品質監督委員会の設置
3. リスク管理体制の見直し
4. 事業部門の組織再編
5. グループ会社の再編
6. 事業部門間の人事ローテーションの実施
7. 現場で生じる諸問題の掌握
8. 「品質憲章」の制定と品質保証体制の見直し
9. 事業管理指標の見直し

II. マネジメント面 [品質マネジメントの変革]

1. 品質マネジメントの対策
 - ・ 品質保証マネジメントの強化
 - ・ 「品質キャラバン隊活動」による現場の問題解決支援の実施
2. 品質保証人材の教育・育成
 - ・ 人材のローテーションや育成の実施
 - ・ 品質憲章に基づく社内教育の強化

III. プロセス面 [品質管理プロセスの強化]

1. 品質管理プロセスの見直し
 - ・ 試験・検査記録の自動化推進とデータ入力の一作業の極少化
 - ・ 出荷基準の一化による不適切行為の機会の排除
2. 新規受注の際の承認プロセスの見直し
3. 製造プロセス変更時の承認プロセスの見直し
4. 設備投資における品質リスクアセスメントの推進

鉄鋼

7,155億円 (前期比 +15.3%)



自動車用弁ばね用鋼

- **鋼材販売数量**：輸出減少も、国内の自動車向け需要の堅調な推移などにより、前期並
- **鋼材販売価格**：主原料価格の上昇などの影響を受け、前期を上回る
- **鋳鍛鋼品売上高**：船舶向け需要の減少により、前期比減
- **チタン製品売上高**：航空機・一般産業向け販売の増加などにより、前期比増
- **経常損益**：前期に計上した高炉改修一時費用がなくなったことなどから、前期比468億円改善の173億円の利益

溶接

805億円 (前期比 △2.1%)



建設機械ロボットシステム

- **溶接材料販売数量**：国内の建築鉄骨やエネルギー向け需要が回復傾向にある一方、韓国の造船向けの大幅な減少により、前期比減
- **溶接システム売上高**：建築鉄骨向け需要が堅調に推移するも、高水準であった前期比減
- **経常利益**：前期比19億円減益の49億円

アルミ・銅

3,495億円 (前期比 +8.1%)



自動車サスペンション用アルミ鍛造部品

- **アルミ圧延品販売数量**：飲料用缶材向け需要が前期並も、自動車向け需要の増加により、前期比増
- **銅圧延品販売数量**：前期並
[銅板条] 自動車用端子や半導体向け需要増
[銅管] タイ生産拠点での設備トラブルにより販売数量減
- **経常利益**：地金価格上昇により在庫評価影響が改善も、当社グループでの製品の一部に対する不適切行為関連の影響やグループ会社の業績悪化により、前期並の118億円

機械

1,613億円 (前期比 +7.0%)



大型混練造粒装置「LCM」

- **受注高**：中国の石油化学分野などの市場の回復基調などから、前期比17.9%増の1,511億円
- **当期末受注残高**：1,404億円
- **経常利益**：圧縮機の一部案件の採算性悪化などにより、前期比35億円減益の23億円

当期の概況

当社グループにおいては、鋼材の販売数量は、自動車向けの堅調な需要に支えられ、前期並となりました。アルミ圧延品の販売数量は、飲料用缶材向けの需要が前期並であったものの、自動車向けの需要が増加したことにより、前期を上回りました。銅圧延品の販売数量は、銅板条において自動車用端子や半導体向けの需要が増加したものの、銅管においてタイ生産拠点での設備トラブルにより販売数量が減少したことから、前期並となりました。油圧ショベルの販売台数は、国内および中国などで需要が増加したことから、前期を上回りました。

業績ハイライト (連結)

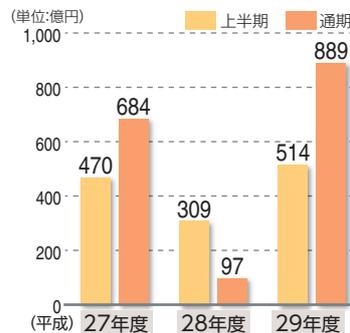
売上高

18,811億円
(前期比 +10.9%)



営業利益

889億円
(前期比 +812.0%)



■ 事業別売上高 (平成29年度)

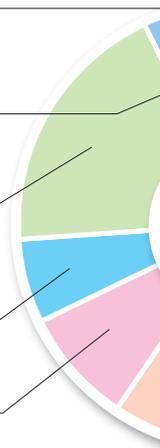
その他
688億円 (4%)

電力
721億円 (4%)

建設機械
3,645億円 (19%)

エンジニアリング
1,228億円 (6%)

機械
1,613億円 (8%)



この結果、当期の売上高は前期比1,852億円増収の1兆8,811億円となり、営業利益は、前期に鉄鋼事業において高炉改修の一時費用を計上していたことおよび建設機械の中国事業において滞留債権等に係る引当金を計上していたことなどから、前期比791億円増益の889億円、経常損益は前期比902億円改善の711億円の利益となりました。特別損益は、当社グループにおける製品の一部に対する不適切行為に関連して、お客様等への補償費用などを計上したものの、投資有価証券売却益の計上により20億円の利益となり、親会社株主に帰属する当期純損益は前期比862億円改善の631億円の利益となりました。

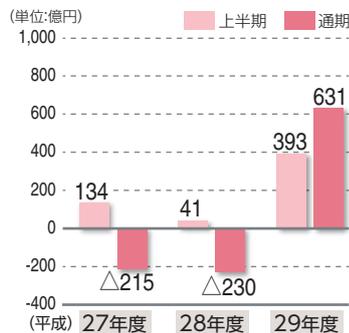
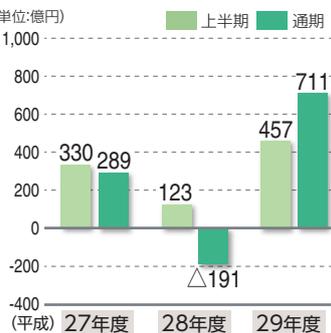
経常損益

711 億円
(前期比 -)

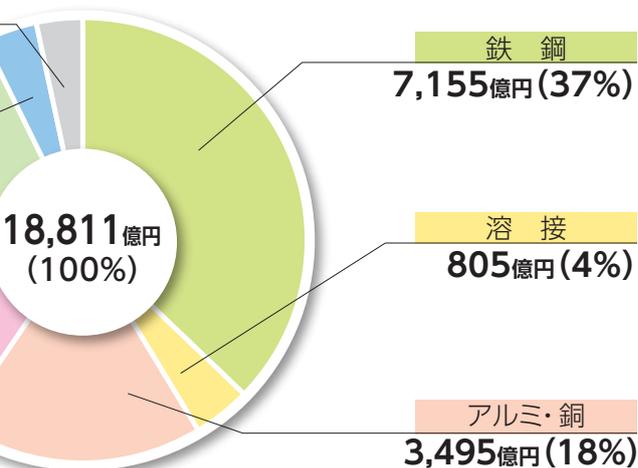


親会社株主に帰属する当期純損益

631 億円
(前期比 -)



(注) 下記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額543億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額18,811億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。



エンジニアリング **1,228 億円** (前期比 +1.4%)



- **受注高**: 複数の大型案件の受注のあった前期に比べ減少し、前期比31.6%減の1,192億円
- **当期末受注残高**: 1,834億円
- **経常利益**: 既受注案件の順調な進捗などにより、前期比41億円増益の69億円

建設機械 **3,645 億円** (前期比 +17.4%)



- **油圧ショベル販売台数**: 前期比増
[国内] 排ガス規制前の駆け込み需要により増加
[海外] 中国でのインフラ投資により需要増
- **クローラークレーン**: 東南アジアを中心とした需要減などにより前期比減
- **経常損益**: 油圧ショベルの販売台数増加や中国での油圧ショベル事業の滞留債権等に係る引当金の計上影響がなくなったことなどにより、前期比533億円改善の219億円の利益

電力 **721 億円** (前期比 +2.2%)



- **販売電力量**: 定期検査日数の増加により、前期比減
- **電力単価**: 発電用石炭価格の市況上昇の影響を受け、前期を上回る
- **経常利益**: 神戸発電所1号機の新契約移行の影響や定期検査時の保全費増加などにより、前期比51億円減益の79億円

その他 **688 億円** (前期比 △8.0%)



- **神鋼不動産**:
[分譲事業] 堅調に推移
[賃貸事業] 堅調に推移
- **コベルコ科研**:
[試験研究事業] 不適切行為の影響により受注減
- **その他**: 連結子会社であった神鋼ケアライフ株式会社を、持分法適用関連会社に変更
- **その他の事業全体の経常利益**: 前期比21億円減益の54億円
(注) 神鋼ケアライフ株式会社は、平成30年6月1日付で、スミリンケアライフ株式会社に商号変更いたしました。

当社グループは「2016～2020年度グループ中期経営計画」を策定し、素材系事業・機械系事業・電力事業の3本柱による成長戦略を一層深化させ、盤石な事業体を確立させるビジョンである「KOBELCO VISION “G+”(ジープラス)」への取組みを進めています。輸送機の軽量化やエネルギー・インフラなど中長期的に伸張する成長分野に経営資源を集中し、当社グループ独自の付加価値を更に高め、競争優位性を発揮していくことで事業を拡大・発展させるとともに、社会への貢献を目指します。

※当グループ中期経営計画の詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.kobelco.co.jp>)をご覧ください。

2016～2020年度グループ中期経営計画 基本方針	
1 3本柱の事業成長戦略	
素材系事業	輸送機軽量化への取組み 鉄鋼事業の収益力強化
機械系事業	エネルギー・インフラ分野への取組み 建設機械事業の収益力強化
電力事業	安定収益化への取組み
2 経営基盤の強化	
i) コーポレートガバナンスの強化	
ii) 人材確保・育成	
iii) 技術開発力・ものづくり力の向上	
3 財務戦略	
財務規律の維持とキャッシュ対策の実施	
2020年度達成目標	
◆ROA(経常損益/総資産):5%以上	
◆D/ELシオ(有利子負債/自己資本):1倍以下を堅持	

※ROA:経常損益÷総資産 ※D/ELシオ:有利子負債÷自己資本

■ 2017年度の主な取組みの進捗

素 材	機 械
<ul style="list-style-type: none"> ● 鋼材生産の上工程(高炉～連続鋳造)の加古川製鉄所への集約の完了 ● 米国における自動車用アルミ押出品の生産拠点において、加工工程の稼働開始 ● 真岡製造所における自動車用アルミパネル材専用設備増強に向けた投資を決定 ● 米国の自動車サスペンション用アルミ鍛造品製造拠点の生産能力増強に向けた追加投資を決定 ● Novelis Inc.の100%子会社であるNovelis Korea Ltd.と韓国においてアルミ板圧延品を製造する合併事業契約に合意し、合併会社Ulsan Aluminum, Ltd.を設立 ● 北米における自動車用ハイテン鋼板の需要拡大への対応に向け、United States Steel Corporation(以下、USスチール社)との合併企業であるPRO-TEC Coating Company, LLCに新たに溶融亜鉛めっき鋼板の製造設備を1基増設することをUSスチール社と合意 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国油圧ショベル事業において、中国側パートナーとの合併解消を合意。成都(内陸部)を中国向け、杭州(沿岸部)を輸出向け拠点とする生産体制の再編を完了。販売代理店の絞り・統廃合、販売管理体制を再構築中。
	電 力
	<ul style="list-style-type: none"> ● 真岡発電所(栃木県)の建設工事を実施中 <div style="text-align: center;">  <p>真岡発電所建設状況</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ● 神戸での発電所新設プロジェクトの環境アセスメントを実施中

■ KOBELCOの約束・Next100プロジェクト

2017年度に開始した「KOBELCOの約束 Next100プロジェクト(次の100年に向けた活動)」に継続して取り組むとともに、当社グループにおける製品の一部に対する不適切行為において、お客様、株主様等のステークホルダーの皆様にご迷惑をおかけし、社会に対して大きな影響を与えた反省を踏まえ、「KOBELCOの6つの誓い」を見直し、「品質」に対する指針として「品質憲章」を新たに追加しました。当社グループで働く全ての者が共有し、当社グループの信頼回復に全力で取り組んでいきます。

● KOBELCOの3つの約束

- 1.信頼される技術、製品、サービスを提供します
- 2.社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
- 3.たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

● KOBELCOの6つの誓い

- | | |
|--------------------------|--|
| 1.高い倫理観とプロ意識の徹底 | 私たちは、法令、社内ルール、社会規範を遵守することはもちろんのこと、高い倫理観とプロとしての誇りを持って、公正で健全な企業活動を行います。 |
| 2.優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 | 私たちは、「品質憲章」に基づき、安全かつ安心で、優れた製品・サービスを提供し、お客様の満足と社会の発展に貢献します。 |
| 3.働きやすい職場環境の実現 | 私たちは、安全で安心して働くことができる職場環境を実現します。また、一人ひとりの人格・個性・多様性を互いに尊重し、それぞれが最大限の能力を発揮して生き生きと働ける職場環境を実現します。 |
| 4.地域社会との共生 | 私たちは、グループの基盤である地域社会に貢献するよう努めます。 |
| 5.環境への貢献 | 私たちは、より豊かで住みやすい社会づくりを目指して、環境に配慮した生産活動を行い、技術・製品・サービスで環境に貢献するよう努めます。 |
| 6.ステークホルダーの尊重 | 私たちは、お客様、お取引先、社員、株主等を含む幅広いステークホルダーを仲間として尊重し、健全かつ良好な関係を築きます。 |

品質憲章 KOBELCOグループは、製品、サービスにおいて「信頼される品質」を提供するために法令、公的規格ならびにお客様と取り決めた仕様を遵守し、品質向上に向けてたゆまぬ努力を続けてまいります。

株主様見学会参加者募集のご案内

当社は、株主の皆様当社グループへのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様見学会を実施いたします。今回ご覧いただくのは、**真岡製造所**です。つきましては下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。



以下の点につき、あらかじめご了承ください。

- 株主様見学会コースは比較的長い距離の徒歩での移動となります。途中何ヶ所か階段がございます。
- **ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。**抽選の結果は8月下旬頃にご通知する予定です。
- 同伴者様は1名まで(小学生以上)とさせていただきます。なお、同伴者様がいらっしゃる場合は必ず参加申込はがきに同伴者様に関する必要事項をご記入ください。申込後に、同伴者様の追加はお受けすることができません。
- **以下の場合、ご応募は無効とさせていただきます。**
 - 株主様ご本人のご応募・ご参加でない場合
 - 同伴者様を2名以上ご記入の場合
 - 申込番号を2つ以上選択されている場合、もしくは1つも選択されていない場合
 - 株主様1名につき、2枚以上ご応募された場合
 - 株主様のお名前等、必要事項のご記入がない場合

株主様見学会の概要 ※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

申込番号	開催場所	実施日時(平成30年)	集合時刻	解散予定時刻	集合・解散場所
①	真岡製造所	11月11日	8:50	13:20頃	JR宇都宮駅※
②			12:25	17:00頃	
③		11月12日	8:50	13:20頃	
④			12:25	17:00頃	

※JR宇都宮駅までの所要時間:JR東京駅から東北新幹線で約50分。

これまでの開催実績(過去4回分)

日 時	開催場所	募集人数	ご応募総数
平成28年 11月	真岡製造所	240人	1,206通
平成29年 2・3月	神戸総合技術研究所 神戸製鉄所	290人	3,261通
平成29年 10月	高砂製作所	320人	2,027通
平成30年 2月	加古川製鉄所 コベルコ建機 広島事業所	450人	1,614通

開催場所	真岡製造所 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘15
対象者	平成30年3月31日現在、当社株式を1単元以上ご所有の株主様
募集人数	240名(各回60名) ※募集人数には同伴者様も含まれます。
参加費	無料 ※ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。
応募方法	同封の参加申込はがきに必要事項をご記入のうえ、ご返送ください。 ※対象者の方にのみ、はがきを同封しております。 【締切日：平成30年7月20日(金)到着有効】
お問い合わせ先	株式会社神戸製鋼所 コーポレート・コミュニケーション部 株主様見学会係 TEL 078-261-4067 受付時間 10:00～17:00(土・日、祝日、その他会社の休業日を除く)

取締役および執行役員 (平成30年6月21日現在)

取締役社長(代表取締役)
山口 貢

本 社	取締役副社長執行役員(代表取締役) 尾上善則	取締役専務執行役員 勝川四志彦	常務執行役員 大久保安	常務執行役員 山口 裕
	取締役副社長執行役員(代表取締役) 奥石房樹	専務執行役員 水口 誠	常務執行役員 永良 哉	執行役員 後藤有一郎
	取締役専務執行役員 眞部晶平	常務執行役員 河原一明	常務執行役員 内山田邦夫	
鉄鋼事業部門	取締役副社長執行役員(代表取締役) 柴田耕一朗*	常務執行役員 山本浩司	執行役員 中村昭二	執行役員 北山修二
	専務執行役員 岡 欣彦	常務執行役員 西村 悟	執行役員 森 啓之	執行役員 木本和彦
	専務執行役員 宮崎庄司			
溶接事業部門	常務執行役員 山本 明*			
アルミ・銅事業部門	専務執行役員 宮下幸正*	執行役員 平田誠二	執行役員 門脇良策	
	専務執行役員 松原弘明	執行役員 浅田秀樹		
機械事業部門	取締役副社長執行役員(代表取締役) 大濱敬織*	常務執行役員 竹内正道	執行役員 岩本浩樹	執行役員 栗岡義紀
エンジニアリング事業部門	専務執行役員 森崎計人*	執行役員 元行正浩		
電力事業部門	取締役専務執行役員 北川二郎*			
社外取締役	取締役 北畑隆生*	取締役 馬場宏之*		
監査等委員	取締役(監査等委員・常勤) 石川裕士	取締役(監査等委員) 沖本隆史*	取締役(監査等委員) 干森秀郎*	
	取締役(監査等委員・常勤) 対馬 靖	取締役(監査等委員) 宮田賢生*		

※印は、各事業部門長であります。*印は、社外取締役であります。

会社の概要 (平成30年3月31日現在)

創立 明治38年9月	株主数 189,496名
発行済株式総数 3億6,436万4,210株	従業員数 11,191名
資本金 2,509億3,003万3,900円	

株式のお手続きに関するお問い合わせ先

株主名簿管理人・特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

当社株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下にお問い合わせください。

〈お問い合わせ先〉

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ **0120-094-777**

(通話料無料(平日9:00~17:00))

※証券会社にお預けの当社株式については、お預けの証券会社にお問い合わせください。

※未受領配当金のお受取りのお手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

環境への取り組みと社会との共生

神戸製鋼グループは、全ての生命体を育む健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針と、6つの実施事項を策定しています。事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

■「第5回 KOBELCO 森の童話大賞」表彰式の開催

神戸製鋼グループは、次世代を担う子供たちに、森をはじめとする自然を大切に思う気持ちを育んでもらうことを目的に「KOBELCO 森の童話大賞」を実施しています。金賞作品は絵本となり、後援自治体の学校や図書館等に寄贈しています。2018年3月25日に灘浜サイエンススクエアにおいて表彰式を開催しました。670件から選ばれた受賞者を招き、全受賞者への表彰状の授与や、金賞受賞者への、絵本作家の永田萌さんとRokoさんの挿絵による絵本の贈呈を行ないました。

※詳細につきましては、当社ホームページの専用ページ
(<http://www.kobelco.co.jp/mori-ohanashi/>)をご覧ください。



受賞者



絵本(金賞作品)

■社会との共生

神戸製鋼グループは、未来を担う子供たちの成長をお手伝いするため、様々な活動を行なっています。2006年度に設立した「コベルコ地域社会貢献基金」では、神戸製鋼グループの事業所・研究所が立地する地域の子供たちを対象に、遊具や絵本、教材などを毎年寄贈しています。2017年度の対象エリアは、14市1町となりました。

また、当社は、当社が支援しているNPO法人「SCIX(シックス)」が考案した球技「スペースボール」を、近隣の小学生に体験していただく際のお手伝いをしています。「スペースボール」は、子供たちの身体能力の向上や



遊具で遊ぶ子供たち



スペースボールを体験する子供たち

チームプレーの習得に適した球技です。当社が運営し、子供を含む地域の方に開放している科学館「灘浜サイエンススクエア」の見学と合わせて、2017年度は11校(約1,200名)に体験していただきました。神戸製鋼グループは、今後もこうした活動を継続し、社会との共生を図っていきます。

詳しくは [ホームページ](#)をご覧ください。

KOBELCO

検索

<http://www.kobelco.co.jp>

株式に関するご案内

■「特別口座」について

現在株券をお持ちの株主様および以前株券をお持ちで現在株券の所在がわからなくなった株主様の株式は、「特別口座」で管理されている可能性がありますので、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください(お問い合わせ先は6ページに記載しております)。「特別口座」では単元株式の売買はできませんので、証券会社の口座に移管することをお奨めします。

※「特別口座」とは、平成21年1月の株券電子化の際に、証券会社に預けられていない株式を管理するために、当社が開設した口座のことです。

■配当金のお受け取り方法について

配当金のお受け取り方法は、次の4種類がございます。

どの方法をお選びかご確認ください(ご指定のない場合は、配当金領収証方式にてお支払いいたします)。

○配当金領収証方式

ご送付する配当金領収証を郵便局の窓口等にご持参いただき、配当金をお受け取りになられる方式。

○個別銘柄指定方式

ご所有の銘柄それぞれにつき、配当金の振込先口座を指定し、お受け取りになられる方式。

○登録配当金受領口座方式

ご所有の全ての銘柄につき、ご指定の銀行口座で配当金をお受け取りになられる方式。

○株式数比例配分方式

ご所有の全ての銘柄につき、口座管理機関(証券会社等)の口座で配当金をお受け取りになられる方式。

※少額投資非課税口座(NISA口座)において配当金を非課税で受け取られる場合、株式数比例配分方式をお選びいただく必要がございます。